

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	笠間市立笠間中学校 第3学年生徒 140名 柔道部員 4名, 剣道部員 7名 計 151名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育科) ② 行事名 (オリンピアン講演会) ③ その他 (昼休み) (2) 地域における活動 1 イベント名 () 2 その他 ()
4 目標 (ねらい)	オリンピックのスポーツに対する思いや、オリンピックに臨んでの心情などを直接聞くことにより、スポーツに対する興味・関心を高める。また、生徒の思いを大切にしながらスポーツに取り組みさせることによって、積極的に運動しようとする態度を育てる。
5 取組内容	<p>① アンケート調査 第3学年生徒に対してアンケート調査を実施し、オリンピック・パラリンピックについての認識や競技種目についての知識を確認した。</p> <p>② オリンピアン講演会 茨城県常総市出身で、アテネオリンピック柔道の金メダリストである鈴木桂治氏を招聘し、第3学年および柔道部・剣道部の生徒を対象として、「夢に向かって努力する大切さ」をテーマに講演会を行った。事後に各自が感想文を書き、お礼として鈴木氏に贈呈した。</p> <p>③ 保健体育での授業実践 アンケート調査の結果を踏まえ、競技人口が少ないが親しみやすくルールも覚えやすいバドミントンを授業で取り上げた。</p>





④ 昼休みの生徒レクリエーションの実施

生徒は昼休みに、業間レクリエーションとして、さまざまな運動をしている。今年度は、体育館を開放し、バドミントンの用具を貸し出すことでその選択肢の一つとした。

<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> • オリンピアン講話を聴くことにより、オリンピック・パラリンピックに対する関心が高まった。 • オリンピック・パラリンピックの競技種目や、その他のさまざまな競技種目への関心が高まり、合わせて競技意欲が高まった。 • 多くの生徒に経験があり、ルールも理解しやすく取り組みやすいバドミントンを保健体育の授業で取り上げたことで、運動が苦手であった生徒も意欲的に授業に取り組めた。 • 運動が苦手な生徒も、昼休みの体育館開放に参加し、バドミントンを楽しむことができた。体育館来館者の約 8 割はバドミントンを選択した。自閉症の生徒も友達に誘われてゲームに参加できた。
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 地元茨城県出身のオリンピックを招聘することで、生徒が講師や講話の内容に親しみやすくなるようにした。 • 誰もが知っていて、規則的にも技術的にも取り組みやすい競技種目であるバドミントンを、保健体育の授業や業間運動で取り上げることにより、運動が苦手な生徒でも積極的に取り組めるようにした。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 家庭、地域との連携で講演会を実施すれば、さらにオリンピック・パラリンピックに対する関心や競技種目に対する関心が高まったのではないかと。 • 本市は東京オリンピック・パラリンピックにおいて、タイのホストタウンとなっており、ゴルフ等の事前合宿を予定している。この点を考慮して実施内容を検討すれば、国際理解やボランティア育成の面でも有効であったのではないかと。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 積極的なバドミントンへの取り組みを足掛かりとして、さらなる運動嫌いな生徒の解消を図っていききたい。 • 本市がホストタウンとなっているタイの選手団との交流を推進していくことで、国際理解やおもてなしの心をもったボランティアの育成を図っていききたい。 • 本研究の経験を活かして、本県開催の国体に向けても、本市が会場になっている競技種目への関心や理解を進めていききたい。